

【学習の目的】

あなたが学んでいる理由や目的は一体何でしょうか。これから学習を続けていく上で、今回はそれを改めてあなたに見つめ直して頂きたいと思います。

華道や茶道、絵画や英会話を習いに行くにしても、または空手道場に行くにしても、私達のように自己成長を求めて学ぶことだって、何かを誰かに学びに行くということにおいては同じことでしょう。

仮に、あなたが空手道場に通っていたとして、その館長や師範、道場長から「そんなやり方では体を壊してしまうぞ！こうやってやりなさい！」と強めの口調で指導を受けたとします。空手なら、「押忍！」と返答するのでしょうか。「押忍」という意味は、「押しして忍ぶ」という意味だそうですが、積極的に自分を戒めるという意味と捉えて大きく外れていないと思います。華道や茶道ならどうでしょう、師範から指摘を受けたら「はい！」と返事をして改めようとするはずですか。

そこでです。あなたは、師範から指摘されて「あの時私が失敗してしまったばかりに先生に指摘させてしまい、気分を悪くさせて申し訳ありませんでした。」とか、菓子折持って行って、陳謝するなんてことをするのでしょうか？

もし、そういう発想になるのだとするなら、指導している立場の心情は全く理解していないと言えます。

昔は、進学校などで、我が子の評価に影響するからと学校の先生にそのような振る舞いをする親がいたなんてことを聞きますが、これは、反省の意を表しているものではないはずです。悪い評価をしないでくださいという意図で起こしている行動であると推察できますよね。分からなくはないですが、在り方として、発展的なものとは言いづらいものです。

逆に想像してみてください。あなたが誰かに指導していて、相手がへりくだって対応してきたとして「分かってくれたなー、いやあ、こうやって下手に出てもらえると気持ちがいいもんだなあ」なんて思うのでしょうか？そんな風に思わないでしょうか？もっと酷いのは「指導側が偉いんだ、だから私の指導を有り難く受け取るべきだ」なんて、指導者ありきの階級思想や価値観を持って押しつけているとしたら、そんな人は即刻指導をやめた方がいい。指導者としての在り方から大きくズレてしまっています。

しかし、自己成長の学習というフィールドではこのような光景が多いのも事実です。本来、指導者が望んでいるのはたった一つ、「生徒の成長」です。

でも、支配欲にまみれた承認欲求の塊の、西洋かぶれして表面だけキラびやかな、中身もない事をいかにも価値あることかのように語り、頭の中は金勘定で忙しいエセ指導者は、受講者に指導した際に、上記のような反応を要求するようです。ですが、これは断じて間違いです。絶対に間違いです。

例えるなら、 $1 + 1 = 3$ 。これは、間違いです。ですので、間違いは、間違いです。

自己成長の学習のコミュニティや団体でよく聞くのが、先生と呼ばれる指導者が受講者を指摘し、その後、受講者が先生にお詫びするという構図です。これは一体何なのでしょう？何の茶番劇なのでしょう？

しかし、指導者側もさることながら、生徒側に問題がないわけではありません。例えば、指摘されてむくれてムスツとする人、これは論外です。こういった人は「あなたのような人間性の人から言われたくないんですよ！」とか「言い方が気に入らない！」とか、言い分はあるんでしょうが、指導者に対してそう思うなら、その人の成長を本当に考えるなら、その人はそこにいない方がいい。そう思いませんか？その人が「この人の言う事なら素直に受け入れられる」という指導者の下で学習した方がはるかに効果的です。そういった人を探せばいい。

さて、受講者側が指摘をされた時の反応として、「すいませんでした」と謝る方と、「ありがとうございました」と御礼を言う方といます。

本来、謝る必要なんてカケラもないのですが「すいませんでした」と謝る人の心境としては、きっと嫌われないようにしようという意識が働いてしまっているのでしょうか。しかし、指導者があなたのことを嫌っていたら、わざわざ指摘したり指導したりしません。あなたが指導者の立場だったら、あなただっけきっとそうでしょう？嫌いな人にわざわざ骨折ってアドバイスしたりしますか？

指導者が生徒を指摘したり指導したりするのは、生徒が成長できると信じているからです。そして指摘や指導が生徒に伝わる、受け取ってくれると信じているからこそ話しているのです。つまり、嫌われないようにしようとするのは、例えるなら、お風呂に入っているのに、お風呂に入ろうとしている、既に食事をしているのに、食べながら「何を食べようかな」と考えるという何とも不思議な状態なのです。そもそも嫌われないようにという振る舞いは、ハッキリ言うのであれば「ずるい人」です。ずるさがそこには働いています。ですので、あなたが、コミュニティに居心地の良さを感じたり、そこに存在意義を見いだしていたり、つまり、環境ありきで関わっているとすると、周りから嫌われることは致命的な出来事です。しかし、あなたの目的が自己成長や自分に違いを創り出すことであるなら、嫌われるとかどうとかという点に意識が向かないはずですし、そういった事が問題とならないはずです。どうしても良いことなはずです。

しかし、私達は成長したいと思いながら、普通から外れることを恐れています。

私達は社会生活において「普通」であるかぎり、ほぼほぼ不都合を感じることはありません。しかし、何か少しでも「普通」から外れた途端に、社会はこんなにも冷たいものだったのかと思ひ知らされます。普通の関係、普通の人、普通のあいさつ・やり取り、普通の仕事、普通の趣味、それらが全て予定調和の流れで進んでいる時、社会では、何ら違和感を感じることなく日常が進んでいきます。

その「普通」からあなたが外れた時、そして普通から外れる人に対する社会の冷たさを痛感した時、よくもまあ今まで気づかずのんきに生きてきたものだと、自分に呆れることでしょう。

普通であるあなたの日常が普通に平和に進んでいたなら、普通でないために苦しんでいる人のことなんて考えようとしなかった自分のその鈍感さに呆れることでしょう。

特に日本社会は、人とちょっと違うだけで、ものすごく生きづらくなります。ほんのちょっと「普通」から外れるだけで、露骨にめんどくさがられ、根拠もなく警戒され、煙たがられ、変人を扱うかのような目でほじくるように見られる。鑑賞側が、害が及ばないうちはまだしも、自分達にその害が及ぶことが予想されようものなら、魔女狩りかのようにバッシングし、完膚無きまでに叩き潰そうとする。インターネットでの誹謗中傷なんて、最たる例でしょう。

これらのことは、具体例を挙げなくたって、自分ごととして分かる人は分かるだろうし、他人ごととして分からない人はどれだけ話を聞いたって分からないことでしょう。

そんな社会が「自分らしさ」などと口にするんです。自分らしさを求めたら、普通でいられるはずがないにも関わらずです。

そして、実際はそんなのは全く以て上っ面で、「自分らしさ」を好んで口にする人たちほど「普通」から逸脱することを怖れているような人たちです。

つまり「普通であるかぎりにおいての自分らしさ」を推奨しているのです。

普通に学校に通い、普通に勉強をがんばり、普通にスポーツに励み、普通に進学し、普通に就職して、普通に結婚して、普通に家庭を築き、普通に人生を生きていく。その範囲でという限定された中で、普通ではあまりに家畜感を感じてしまうでしょうから、「自分らしさ」を求めましょう。と言っているわけです。

だから、普通から外れることはありません。さらに、普通であることって難しいのだよ、なんて言う大人もいます。もはや、意味が分かりません。。。

さて、我々は研究会会員である以上、いつまでもその「普通」に安住していただけるものだろうか、また「普通」に安住していて良いものだろうかと問いたいのです。そもそも「普通」から逸脱したくて、こうやって私達は切磋琢磨しながら、学習しているはずですから。「普通」であることへの違和感から、「在りたい自分」や「なりたい自分」という理想に向かって不器用ながらも進もうとしているはず。昨日よりも今日、今日よりも明日へと。そして、いつかはその「普通」から出て、あなたは痛い目にあうでしょう。残念ながらそれは必然です。確立で言うなら100%と断言します。あなたが、普通から逸脱した瞬間に、社会は、あなたを批判することでしょう。何と生きづらいことでしょう。何と矛盾がはらんでいることでしょう。

それがもし私達の性（さが）ならば、「生きにくさこそが自分らしさなのだ」と、わたしはあなたに言いたい。

あなたは、何を恐れているのです？何を躊躇（ちゅうちょ）しているのです？なぜ、顔色を伺っているのです？どうして、どう思われてるかなんて気にしているのです？

普通でいたくないのに、普通に振る舞おうとして、それじゃあブレーキ踏みながら、アクセル踏んでいるようなものです。そりゃあ、疲れます。

それらを一蹴してくれるのが、目的です。目的は、私達の存在意義を確立させてくれます。あなたが存在意義を確立させた時、あなたは真に「自分らしさ」を確立することとなるのです。